

第1回 大淀川学識者懇談会 議事概要

日時：平成25年12月10日(火) 13:30～15:30
場所：国土交通省 宮崎河川国道事務所 大会議室

I. 次第

1. 開会
2. 挨拶 宮崎河川国道事務所 所長
3. 委員紹介
4. 懇談会の目的と規約等の確認
5. 委員長の選出
6. 挨拶 大淀川学識者懇談会 委員長
7. 議事
 - 1) 現整備計画内容の点検
 - 2) 当面の整備予定に対する事業再評価
8. その他(今後の予定等)
9. 閉会

II. 主な意見等

【※青字は、事務局からの回答等】

- 1) 規約等について
 - ・ 今回の懇談会の位置付けとして、ソフト対策等で大事と思われる地方自治体や、ダムを管理する九州電力との関連は？
→直轄区間の事業評価と整備計画内容の点検は、事業主体である国が行うが、整備計画を変更する際には、地方自治体や関係機関とも十分調整しながら進めていく必要がある。
 - ・ 整備計画を変更する判断は、どのような条件で行われるものなのか？
→大淀川流域の社会情勢の変化や地域の意向、整備の進捗状況等、総合的な観点から判断していく。

2) 現整備計画の点検について

- ・ 雨の降り方も変わっている今、大淀川は緊急に治水整備を進めていく必要があると考える。平成 17 年から 7~8 年経過しており、非常に大きな台風がいつ来てもおかしくない時期だと、個人的に危機感を持っている。
- ・ 急激に雨の降り方が変わってきている中で、ハード対応が難しい外力に対し、自らの命だけは守るといったシステムづくりも進めていると聞いているが、大淀川では国交省としてどのように考えているか？
→津波は L1、L2 に分けて対策している。現河川整備基本方針の目標規模に対し、河川利用面等を勘案しながら、出来るだけ現実的なメニューを、ハード・ソフトの両面から対策方法を議論し、対応していかなければならない。
- ・ 今回点検・見直しを行った地区について、整備計画策定当時との関係について、再度説明して欲しい。
→当初計画から地震・津波対策は盛り込んでいたが、具体の設計基準(津波高等)等が近年になって変更・提示されたため、現在、それに合わせ設計しているところ。
- ・ 治水、利用、環境を分けて議論すべきではない部分もあると思うので、三位一体となって進めて欲しい。
→津屋原沼では、学識経験者にご指導を頂きながら進めている。ご指摘のとおり、今後も引き続き、利用と環境とセットで進めさせて頂きたいと考えている。

3) 当面の整備予定に対する事業再評価

- ・ 残事業 B/C が僅か 3 年程度で下がっている理由は？
→治水事業の場合、効果のより大きなところを選択して対策するところがあり、結果的に最後の方は費用対効果が小さくなる傾向にある。
- ・ 現整備計画の事業の中で、平成 17 年洪水の位置付けはどのように考えれば良いか？
→平成 17 年洪水対応に向けた段階目標として、当面出来る目標を現整備計画にて設定している。次の目標設定の際には、平成 17 年洪水について当然議論になると思う。なおソフト対策については、平成 17 年洪水を踏まえて議論し、様々な対策に取り組んでいる。
- ・ B/C で一番計測できない効果は「人命」と思うが、やはりそこまでは踏み込めないのか？
→現在、新マニュアルが試行中であり、これから少しずつ評価されていくものと思われる。よって、本当はまだまだ便益があるが、お金の換算できる最低限の部分で評価している。

- ・ 上記に関連し、環境の評価は、新たな項目に入っているか？
→入ってない。
- ・ 河川整備で人命が救われることもあると思うが？
→氾濫するエリアもが減るので、被害も当然、軽減する。
- ・ 人口減少に対して、今後の計画において、何か考え等があれば教えて欲しい。うまくやると国土のあり方も変わらと思う。
→都市計画との連動や浸水リスク等を踏まえた誘導、土地利用規制等が大事と考えている。
ハザードマップ(浸水想定区域)の公表もその一環である。
- ・ 治水を考えるうえでソフト対応は非常に大切な部分なので、「水害に強い地域づくり委員会」における提言内容の実施状況について調べて頂き、次回委員会にでも紹介して欲しい。
- ・ 『気象条件も劇的に変化している中、近年の気象条件に適応できるような整備計画についても、検討し考えていただきたい』といったことを、学識者懇談会として提言しておく必要があると思う。
- ・ 雨量と河川流量の変化状況について、上流部も含めて、次回に示して頂きたい。
- ・ 河川環境整備事業も含めて、実施状況等を説明していただきたい。
→環境やソフト対策等も、定期的に懇談会を開催し、テーマを絞りながら総合的に議論できるようにしたいと考えている。また、(整備計画)見直しについても、次年度以降になると思うが、ご意見を頂いてまいりたい。

Ⅲ. 事務連絡

- ・ 今回のご指摘内容等については、次回(次年度になると思うが)、ご説明させて頂きたい。